

# 報告事項 ア

|      |  |
|------|--|
| 件名   | 未来の職業人材育成事業の取組について   |
| 提出理由 | 未来の職業人材育成事業の取組について、別紙のとおり報告します。  |
| 概要   | <ol style="list-style-type: none"><li>1 未来の職業人材育成事業について<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 目的</li><li>(2) 事業概要</li></ol></li><li>2 令和2年度実践事例と成果<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 農業科の実践事例（羽生実業高校）</li><li>(2) 工業科の実践事例（春日部工業高校）</li><li>(3) 商業科の実践事例（皆野高校）</li><li>(4) 家庭科の実践事例（新座総合技術高校）</li></ol></li><li>3 令和2年度事業推進校</li><li>4 高校教育指導課ホームページによる事例紹介</li><li>5 今後の展望と課題</li></ol> |

（高校教育指導課）

# 未来の職業人材育成事業の取組

## 1 未来の職業人材育成事業について

### (1) 目的

この事業は、地域の活性化や産業振興に貢献できる人材を育成するため、高等学校の生徒と企業等が連携する職業教育により、専門的な知識や技術を習得させるとともに、商品開発能力や技術開発能力を身に付けさせることを目的とする。

### (2) 事業概要

専門高校や総合学科高校の生徒を対象に、各職業分野のプロを学校が招致し、実技指導を実施する。その成果を基に、生徒が地域の活性化や産業振興を図るため、商品開発、技術開発、アイデア考案などに取り組む。

## 2 令和2年度実践事例と成果

### (1) 農業科の実践事例（羽生実業高校）

羽生市の活性化を目的とし、市内のレストラン「<sup>オルトン</sup>ORTON」と連携して、学校で生産した小麦を原料とした商品開発を行った。

生徒が考案したうどんのメニューを「さとのそらうどん」及び「梅みそうどん」として商品化し、8月に数量限定で販売した。

生徒は、レストランとのメニュー検討会議で消費者ニーズの高い商品を目指して試作を繰り返した。また、外部講師による麺打ち実習を通して製麺技術を習得するなど食品製造の専門性を向上させて商品開発に臨んだ。



小麦の調製作業



さとのそらうどん



梅みそうどん

### (取組の成果)

生徒の取組は、うどんの原料となる小麦の栽培からはじまり、レストランの目玉となるメニューの考案、そして販売の創出までつなげられた。農業高校として6次産業の実践が地域の活性化に役立つことを実感することができた。

### (連携企業の講評)

今回はメニューPOPづくりにも取り組んでもらい、生徒の想いが詰まったPOPとなっていた。売れ行きも好調で、土曜日と日曜日は完売だった。お客様からも美味しいとの声が聞こえており、うれしく思う。ナイスアイデアだった。

## (2) 工業科の実践事例（春日部工業高校）

春日部市の活性化を目的とし、イオンモール春日部と連携して、12月に「春工フェス@イオンモール春日部」を開催し、親子で楽しめるゲームを企画した。

この企画は、感染症拡大防止対策を講じた非接触型の子供向け体験ゲームであり、プログラミングや電気回路、電子制御などの専門的な知識・技術を生かしている。

企画の実施に当たっては、企業との会議を複数回実施する中で、生徒がコロナ禍においてもお客様が満足できる視点に立ち、主体的に意見交換を行った。



UFO キャッチャー

ジャングルハンター

ピンポン&ストライク

### ※ UFO キャッチャー

機械に触れずに、手と足のジェスチャーにセンサが反応してアームが動く仕組みに仕上げた作品。

### ※ ジャングルハンター

ぶら下がっているツルに触れないように通るゲーム。奥にモアイ像があり、ツルに触れずにゴールすれば像の目が♡になり、成功を祝う音楽が鳴る。触れると目が×になりゲームオーバーの音楽が鳴る作品。

### ※ ピンポン&ストライク

エアーで浮いたピンポン玉を卓球ラケットで打ち、得点の高的に当てるゲーム。モニターと連動しており、的に玉が当たると華やかな音楽と映像が流れる。これらが全てプログラミング制御されている作品。

### (取組の成果)

2日間のイベントで、337名の親子に体験してもらい、「楽しい」、「すごい」と称賛されたことに生徒は達成感を得た。また、工業高校で学んだ知識・技術を生かし、非接触型など時勢に対応した技術開発につながられたことは大きな自信となった。

### (連携企業の講評)

生徒が企画立案から運営まで全て対応していて素晴らしい。特に、一般のお客様への接客について自主的に考え、工夫している姿を拝見し、社会とのつながりや地域貢献を体現している様子に感銘を受けた。

### (3) 商業科の実践事例（皆野高校）

秩父地域の課題解決を目的とし、皆野町やちちぶのじか活性化協議会と連携して、秩父地域の鳥獣被害軽減につなげる商品の開発・販売活動を行った。

皆野町みらい創造課と鳥獣被害を含めた秩父地域の課題について意見交換を行い、皆野町に関するSWOT分析を基に取組内容を検討した。その結果、駆除された鹿の革でクラフトを製作し、地域イベントでの販売を通じて得た利益を秩父地域鳥獣害対策協議会へ寄付することとした。

鹿革クラフトの製作に当たり、ちちぶのじか活性化協議会から鹿革の無償提供を受けるとともに、商品開発に関する指導助言を受けた。



皆野町役場との意見交換



鹿革クラフト



地域イベントでの販売

#### (取組の成果)

地域の課題解決のため、生徒が調査・製作・販売など実践的なマーケティング活動を行うことで、地域を知り、郷土愛を深めることができたとともに、課題と真摯に向き合おうとするチャレンジ精神を身に付けることができた。

#### (連携企業の講評)

獣害対策で処分される鹿を地域特産品に変わらせるプロジェクトとして、皆野高校生には協力してもらっている。高校生らしい柔軟なアイデアに、いつも驚かされている。

### (4) 家庭科の実践事例（新座総合技術高校）

ファッション業界で活躍できる技術の習得を目的とし、カラーリストや縫製業者の指導の下、ファッションと色彩の関係性を理解するための実習や仮縫いと補正の実習を行った。

生徒がモデルとなってパーソナルカラーの確認作業を体験したり、仮縫い・補正の技術指導により、服のライン調整や見栄え、着心地への変化を体感したりする実習を行った。

ソーシャルディスタンスを保ちながらも、講義や実演、演習を交えながら生徒は指導を受けた。





パーソナルカラー確認指導      仮縫い・補正指導      アパレルの仕事に関する講話  
(取組の成果)

顔や手など体の各所で合う色が違ったり、色一つで人の印象が変わったりするなど色がファッションに与える影響について体感したことで、色彩感覚を磨くことができた。また、服の色やラインなどに微妙な変化を付ける技術はプロならではのであり、学んだ生徒は専門の授業に一層励む意欲を見せた。

(連携企業の講評)

生徒からの質問攻めにより、予定の時間を超過してしまった。興味の深さを実感した。コロナ禍でアパレル業界は大変であるが、こんな時だからこそ、将来を担う子供たちの職業意識が高まるように支えていきたい。

### 3 令和2年度事業推進校（五十音順）

いずみ高校、岩槻商業高校、浦和工業高校、浦和商業高校、大宮工業高校、大宮商業高校、春日部工業高校、川口工業高校、川越工業高校、川越総合高校、久喜工業高校、熊谷工業高校、熊谷商業高校、熊谷農業高校、鴻巣女子高校、越谷総合技術高校、児玉白楊高校、狭山経済高校、狭山工業高校、杉戸農業高校、誠和福祉高校、秩父農工科学高校、常盤高校、所沢商業高校、戸田翔陽高校、新座総合技術高校、鳩ヶ谷高校、羽生実業高校、深谷商業高校、吹上秋桜高校、三郷工業技術高校、皆野高校 計 32 校

### 4 高校教育指導課ホームページによる事例紹介

下記のサイトに本事業の事例を掲載している。

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2208/senmonkoukou/>

[mirai-syokugyojinzai.html](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2208/senmonkoukou/mirai-syokugyojinzai.html)

### 5 今後の展望と課題

専門高校や総合学科高校においては、地域の持続的な成長を支える職業人の育成が求められている。そのため、産業界を核として、将来の地域産業の在り方を検討し、その中で高校での人材育成の在り方を整理する必要がある。

そこで、本事業の取組を基に、各校が企業等との連携を一層進化させるため、企業等と一体化した教育課程について研究していく。